

造影CT検査説明書

【用途・目的】

造影CT検査は、静脈注射によって血管内にヨード系造影剤を注入する検査です。造影剤を使用することで、病気の有無や性質・範囲を、より正確に判断し易くなります。

【ヨード系造影剤の使用に際し注意が必要な方】

- ヨードまたはヨード系造影剤に過敏症の既往歴がある方
- 重篤な甲状腺疾患のある方でコントロールされていない方
- 気管支喘息のある方でコントロールされていない方
- 褐色細胞腫と診断された方

【副作用について】

ヨード系造影剤は下記の副作用を生じることがあります。

《即時性》

軽症

悪心、軽い嘔吐、くしゃみ、発赤、掻痒感、一過性蕁麻疹など

中等症

血圧低下、顔面・喉頭浮腫、気管支痙攣、広範な蕁麻疹など

重症 [0.04%]

心室頻拍、痙攣、肺浮腫など

重篤 [0.004%]

意識不明、呼吸停止、心肺停止

《遅発性》

造影剤は24時間以内に全量排出されます。稀に、排出されるまで遅れて副作用が起こる可能性があります。

重症、重篤な副作用が発生した場合には救命処置や入院が必要になることもあり、場合によっては後遺症が残る可能性があります。当院は副作用が発生した際には迅速な処置を行える体制を整えております。

【血管外漏出】

急速注入が必要となる検査や血管が脆く破れやすい場合は、造影剤が血管外に漏れる可能性が高くなります。漏れた場合は腫れや赤みを帯びたりしますが、時間の経過とともに自然に吸収されます。しかし、漏れた量が多く痺れをきたす場合には処置が必要になることもあります。

【造影剤腎症】

ヨード造影剤は尿から排出されるため、腎機能に影響を及ぼす可能性があります。また、腎機能が悪い場合は造影剤腎症のリスクが高くなるため、造影検査前後で点滴が必要な場合があります。

【併用に注意すべき糖尿病薬】

ビッグアナイド系糖尿病薬との併用は乳酸アシドーシスを起こすリスクが高くなります。造影検査日より前後2日間(計5日間)の服用停止、またはビッグアナイド系以外の糖尿病薬へ変更が必要です。

独立行政法人
国立病院機構

京都医療センター

造影CT同意書

京都医療センター院長 殿
診療科長 殿

ご説明内容

- ① 用途、目的
- ② ヨード系造影剤について注意が必要な方
- ③ 副作用について
- ④ 血管外漏出
- ⑤ 造影剤腎症
- ⑥ 併用に注意すべき糖尿病薬

私は今回の造影検査を受けるにあたり、担当医師から上記に記載された説明(別紙:造影CT説明書)を受け、理解し納得しましたので同意いたします。また、緊急の処置が必要な場合には、適宜処置を受けることに同意いたします。尚、同意はいつでも撤回することができます。

検査内容

検査予定日

貴院の名称

医師名

承諾日 年 月

ご本人署名 氏名 印

保護者
または代理人の署名 氏名 印

患者様との続柄()

※直筆の署名がある場合は印鑑は不要